

日本性科学会 ニュース

第35巻第1号

平成28年(2016年) 3月

発行人: 大川 玲子 印刷所: (株) 絢文社

第45回セックス・カウンセリング研修会

日 時: 2016年5月22日(日)

場 所: 東京慈恵会医科大学西新橋校1号館5階講堂(東京)

受 講 料: 一般 12,000円 学会会員 10,000円 学生 3,000円

※昼休みに2016年度日本性科学会総会を開催致します。

第36回日本性科学会学術集会／第17回性科学セミナー

日 時: 2016年9月17日(土) 第17回性科学セミナー

2016年9月18日(日) 第36回日本性科学学術集会

場 所: 長野赤十字病院 基幹災害医療センター

〒380-8582 長野市若里五丁目22番1号 TEL 026-226-4131(代) FAX 026-224-1065

JR 長野駅東口より約1.8km バス7分、タクシー 5分、徒歩30分

会 長: 天野 俊康 長野赤十字病院第一泌尿器科部長

テ ー マ: 地域に根ざした性の健康を考える

特別講演: 「性科学から Men's Health をひも解く」(仮) 川崎医科大学泌尿器科学教授 永井 敦

会長講演: 「泌尿器科医として性科学へ関与できること」

シンポジウムⅠ: 「地域活動での思春期教育再考」

シンポジウムⅡ: 「地域に根ざした男性学(アンドロロジー)の診断と治療」

パネルディスカッション 「ピアカウンセラーが語る性教育が男性に与える変化」

一般演題

一般演題募集: 一般演題発表を希望される方は、①演題名、②演者氏名(発表者に○)、③所属、④連絡先住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス、⑤抄録原稿800字以内を、件名: 第36回日本性科学学術集会演題応募として、下記メールアドレスへお送りください。採否、発表方法などの詳細は、後日ご連絡いたします。なお、一般演題の発表は、すべてパソコン・プロジェクターを使用する口演のみの予定です。

演題締切: 2016年7月2日(土)

送付先: jsss36@nagano-med.jrc.or.jp

懇 親 会 (日本性科学連合第17回性科学セミナーと合同): 2016年9月17日(土)

長野赤十字病院 基幹災害医療センター

第36回日本性科学会事務局: 〒380-8582 長野市若里五丁目22番1号

長野赤十字病院泌尿器科 担当: 天野 俊康

TEL: 026-226-4131(代表) FAX: 026-224-1065

E-mail: jsss36@nagano-med.jrc.or.jp

Vol. 35

No.
1

日本性科学会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-3 森島ビル4F

TEL・FAX 03-3868-3853

〔症例研究会より〕

「GPS付き出会い系アプリの普及が日本の成人期前期のゲイ・バイセクシュアル男性のパートナー関係に与える影響—良い関係を長く続けるためには—」

東京大学大学院教育学研究科臨床心理学コース 修士課程

小林良介

今回の研究会では、GPS付き出会い系アプリの普及がゲイ・バイセクシュアル男性（以下、GB男性と略記）のパートナー関係に与える影響について取り上げた。

近年世界的に普及しているGB男性の出会いツールとしてGPS付き出会い系アプリがある。GPS付き出会い系アプリ（以下、アプリと略記）とは、スマートフォンのGPS機能によって自分の位置から近い人と気軽にメッセージのやり取りができるオンラインツールである。アプリの普及によって出会いの効率化が促進されたとされるが（Beymer et al., 2014）、「出会いの使い捨て化」（井上, 2002）によって妥協できずにパートナーを見つけられない人が増える可能性も考えられる。また、交際中のパートナーがいても約半数のGB男性がオンラインツールを用いてパートナー以外と性交渉したり（Prestage et al., 2015）、メッセージ交換をしたことがある（日高ら, 2011）と答えている。以上より、アプリの普及がむしろGB男性のパートナー関係を妨げている可能性が考えられた。しかしながら、アプリに関する研究は日本ではまだなく、海外においてもアプリの研究は性感染症のリスク行動に関する研究が多く、パートナー関係との関連の研究は乏しい。そこで、アプリの普及がGB男性のパートナー関係に与える影響について、関係の構築段階（出会いから交際開始まで）と維持段階（交際開始以降）に分けて検討した。

22名の研究参加者にインタビュー調査を行い、質的分析を行った。結果として、構築段階において「交際開始までに相手のことをいかに良く知るか」ということが最も重視されていることがわかった。そのためには、共通項が多い、交際を意識しにくい、複数人で会うことが多い等の特徴を持つ「オフライン」での出会いの方が条件が整っている可能性が示唆された。一方で、外見から入りやすく1対1で会うことが多いためセックス目的になりやすい特徴を持つアプリでの出会いでは相手を深く知る前に関係が切れやすい傾向があるが、共通項を増やす等の工夫をすることによってアプリでも交際までに相手を良く知ることが可能だという声もあった。

維持段階においては、パートナー関係においてどのようなことを重視し、それをもとにどのような関係維持のための努力や工夫がなされているかがわかった。関係維持のための努力・工夫の中には「パートナー以外で性欲発散」というものがあり、異性愛カップルにおける関係存続の1要因である「性に対する伝統的なオリエンテーション」（Simpson, 1987）に反するものとしてGB男性に特有であると考えられる。また、交際開始後のアプリの使用に関する語りはパートナー以外との交友やセックスの文脈において多く得られたため、パートナー以外との性交渉に関してより深く分析を行った。その結果、パートナーとの間で性的関係を完結させるのは難しく、パートナー以外とのセックスは「良くはないが仕方ない」という語りが多く得られた。実際にパートナー以外とのセックスに及ぶかどうかは様々な判断基準や葛藤を経ることもわかった。もしパートナー以外とのセックスをした場合に別れにつながらないようにするためには、パートナー間でセックス以外のつながりを盤石にしておく必要性も語られた。

本研究ではアプリが普及する今日の日本におけるGB男性のパートナー関係における困難さや交際戦略に関する知見が得られた。今後同性カップルの権利保障の動きが進むと考えられる日本においても

GB 男性のパートナー関係に関する相談の必要性が高まると考えられる。また、本研究の参加者の多くは親密なパートナーの獲得と長期的なパートナー関係を望んでいたことから、本研究の知見からより良いアプリの開発につながることで GB 男性のメンタルヘルス向上につなげうると考えられる。研究会の場では、レズビアンや結婚が法的に認められている海外の GB 男性との比較の必要性が指摘された。また、GB 男性に法的にパートナー関係が認められるようになった後は異性愛カップルとどのような違いがあるのかという疑問や、文学や映像作品等においてモデルの少ない GB 男性がパートナー関係の概念や築き方についてこれから模索していかなければならない困難さについての意見も上がり、今後より深く検討していく必要があると考えられる。

第35回日本性科学会学術集会を終えて

第35回日本性科学会学術集会学会長

埼玉医科大学産科婦人科

石 原 理

2015年10月11日に、埼玉県民健康センターにおきまして、日本性科学会学術集会の開催を御世話させていただきました。大川玲子理事長はじめ会員各位のご支援を頂戴し、学術集会が盛会に終わりましたことをまずご報告させていただきます。関係方面のご支援と会員の皆様のご協力に、医局員一同、心から感謝申し上げます。

学術集会では、特別講演（「民俗生殖理論と性」）に栗田博之東京外国語大学教授、教育講演（「骨盤臓器脱と性機能」）には永田一郎防衛医科大学名誉教授をお招きし、いずれも本学会ではあまり取り上げられる可能性がない話題のご講演を頂きました。いずれも、すばらしいご講演でしたが、小生が個人的に何よりも嬉しかったご講演は、大川理事長が、理事長講演として「日本性科学会のあゆみ」をお話されたことでした。今後10年で、本学会に限らず日本のさまざまな社会メカニズムに大きな世代転換が起きます。これは避けられないことで、この時期に、一定のこれまでの総括を行うことは、いずれの場面においても必須の行動であろうと思います。歴史ある日本性科学会を短時間に総括された大川理事長のユーモアを交えたお話には、感動を覚えた次第です。

さて、ふたつのシンポジウム「コミュニケーションとしての性を教える」と、「エ・アロール～中高年からの性を謳歌する」は、いずれも大きな盛り上がりを見せました。特に後者は座長と演者の一部変更があったにもかかわらず、指定発言を担当した浜野佐知監督の大活躍で、とても参加者の印象に残るシンポジウムとなりました。皆様の活発なご発言とご質問に御礼申し上げます。

幸い第35回日本性科学会は最終的に赤字になりませんでしたが、本学会の規模の集会について、赤字を出さずに開催することは、次第に困難になりつつあります。医薬業界からの寄付金収入が減少の一途となっていること、広告収入の確保も容易でないことから、今後の学会運営は回を追って経済的なハードルが高くなると考えられます。対策として、会場費をいかに削減するかが最大のポイントと考えられますが、参加費の値上げなども考えざるを得ない状況が近づいていると考えられます。

末筆ながら、本学会のますますのご発展をお祈りして、ご報告にかえさせていただきます。今後ともどうぞよろしくご指導下さい。

2016・2017年日本性科学会理事選挙結果

この度理事選挙（全国1ブロック）において、下記の通り立候補届けがありました。

（受付順）

大 川 玲 子	茅 島 江 子	針 間 克 己	高 波 眞佐治
阿 部 輝 夫	永 井 敦	村 口 喜 代	石 河 修
菅 沼 信 彦	塚 田 攻		

それぞれの立候補者について、立候補資格要件（5名の推薦者、入会以後3年以上）をチェックしすべて適格でありました。

また、立候補者数が定員の枠内でありますので、無投票で全員を当選者と決定致しました。

2016年3月3日

日本性科学会選挙管理委員会

委員 大 谷 眞千子
花 村 温 子
今 井 伸
石 丸 径一郎

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト資格認定委員会報告

日本性科学会副理事長（認定制度担当） 阿 部 輝 夫

本年も日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、2016年度資格更新が行われます。「資格更新」に関する告示は、6月発行の日本性科学会ニュースに掲載されます。

尚、更新該当者氏名（登録順）は以下の通りです。資格認定更新規定を熟読の上、更新希望者は御準備を御願い申し上げます。また、同時に2016年度新規資格認定に関する告示もニュース6月号で行います。

資格更新該当者 セックス・カウンセラー 荒 木 乳根子 宮 野 恭 一
セックス・セラピスト 塚 田 攻

会費納入のお願い

4月より新しい年度（2016年4月1日より2017年3月31日）にはいりますので、2016年度年会費（一般12,000円 役員15,000円 学生5,000円）の御納入を、宜しく御願い申し上げます。手数料が無料となります学会の郵便振替用紙を同封致しますので、御利用下さい。

尚、学生の方は学生証のコピーを事務局にお送り下さい。学生会員と認められた場合は、改めて学生会員用の郵便振替用紙を送付致しますので、その用紙でお振込みを御願い申し上げます。